



# 最高3400度Cの電気炉

## 研究用省エネ・炉の消耗抑制

富士電波工業

富士電波工業（大阪府市淀川区、横島俊夫社長、06・6394・1151）は、最高温度3400度Cの研究用抵抗式電気炉（写真）を開発した。加熱範囲を投入する試料ケース周辺だけに集中し、省エネルギーと炉の消費抑制を実現。電池用電極など新素材の研究開

は炉内の材料として使う黒鉛が蒸発する温度だが、消耗を最小限にできる。

同装置は高温に達した物質の状態を実際に確認したい研究者の要望を受けて開発した。細かな設計を見直し、従来から約20カ所の構造を改良。部品の形状や表面処理を工夫し、

熱膨張による破損防止や断熱性の確保などを実現した。設置面積は奥行き2200mm×幅1800mm×高さ2000mm。

発用途を見込む。消費税抜き価格は約300万円から。直径40mm×長さ55mmの試料ケースをヒーターの筒内に入れて使用する。短時間でも必要な温度に到達すればよい事例が多いため、昇温速度も確保し加熱時間を短くできるようにした。3400度C